

外国人に日本語を教えるボランティア団体

Tachikawa International Friendship Association

創立 30 周年に思う

土曜教室 波多野 進

記録と記憶



私が TIFA に入会させて頂いたのは 2001 年 6 月、そして 12 月に 10 周年記念式典がありました。当時の青木市長ご夫妻から祝辞を頂きました。市役所内のティンカーベルのグループが華やかさを盛り上げて下さいました。

2011 年、20 周年記念式典は、どなたが来られて祝辞を頂いたのか全く記憶がありません。記録に残しておくべきであったと反省しています。しかしこの時の様子は広報部で記録を残して下さい、詳しい様子が分かりました。木曜クラスは「上を向いて歩こう」、土曜クラスは「世界に一つだけの花」、そして西砂教室は二胡の演奏による「北国の春」の大合唱で一気に盛り上がったことを、私も思い出しました。30 周年は自分なりに記録を残しておこうと考えています。

この 2 年間はコロナ感染の影響により、教室運営が大変な時期でした。このことは後世のために、残しておく必要があります。

数年前になります、財務省がある問題で国会で追及を受けた時に「記録は処分した」と答弁して大きな問題になりました。記録は国有財産です。国であれ我々のようなボランティア団体であれ「記録を残すこと」は大変重要なことであると思います。それが会報であり 20 周年記念誌、30 周年記念誌です。幸いなことに会報は第 1 号から 150 号まで全て保存されていると聞いています。記録は残るが記憶は残りません。

世界ふれあい祭り 2013



西砂教室新代表

岡田 良雄

代表就任にあたって



私が TIFA 西砂教室の一員となったのは 6 年前の 2016 年です。受講生も多く、活気がありました。国別では中国よりベトナムの方が多くなってきていました。そのほとんどが技能実習生です。実情は日本人の嫌がる 3K 職場等であり少子化でなお、

拍車がかかっています。近年「帰れない、厳しい、給与が安い」新 3K が加わっています。しかしながら労働力不足により外国人労働を必要としています。

50 年前、二十歳を前に 21 世紀はどれだけ素晴らしい世界だろうかと夢見ていました。現実には、戦争は止まず、難民の数が膨大で、あまりにもひどすぎる世界にがく然としています。先般ウクライナ問題を受けて、ウクライナより急遽 1,500 人余りを受け入れました。日本は国連の常任理事国入りを目指しています。難民の問題は避けて通れず、技能実習生の問題も含めて入管法の更なる改正により分相応の難民受け入れは必須と思います。近い将来、難民や技能実習生の動向が多文化共生都市宣言の立川市、そして TIFA にも大きく影響してきます。

現在コロナ禍で活動にブレーキがかかっていますが、TIFA の活動を温存し、地道に活動を継続することが講師一人一人に課されていると思います。TIFA 前会長のお言葉をお借りします。活動の基本は「外国人に対する生活用語の指導とコミュニケーション能力の向上を支援すること」です。私の大切な指針として具体的に展開し実践していきたいと思っています。

リモート授業も活動温存の一つだと思います。コロナ禍でも影響の少ないリモート授業の充実と拡充を行い、対面授業に於いても一層の感染防止対策を行っていききたいと思います。授業の様子を見ていると感染防止上、まだまだ危なっかしい場面が散見しています。西砂教室代表の仕事は非常に重いですが、諸先輩のご指導をいただきながら共に歩んでいきたいと思っています。

リレーコラム 交差点

西砂教室 市川 恵子

慣れない言葉

学習者の方と一緒に日本語を勉強しているときに、気をつけていることがあります。

それは、標準語で話すことです。立川で生まれ育ったのですが、福島県で30年以上過ごし、すっかりお国言葉に馴染んでしまっていたのです。

彼の地に越した当初は、地元の人同士の会話を聞くたびに、目が点になったものです。

「いや〜、なんだが こわいな」

「がおったら てゑへんだ はよ〜ねっせ」

「こわい」は、疲れた。「がおる」は、体調を崩すの意です。

「この ねこさ おんつぁになっちまっただ」

「しゃあねえばい、なげっせ」

標準語に訳すと、こうなります。

「この一輪車、壊れてしまったよ」

「仕方ないから、捨てなよ」

とても優しい響きの福島弁に直ぐに慣れましたが、最初戸惑っていた自分を振り返ると、日本に来て言葉が通じない学習者の人の気持ちが少しは理解できる気がします。

受講生のお役に立てればと願いつつ活動しています。



木曜教室 富田 康予

夏のハプニング

今年、初めて熱中症になってしまいました。熱中症に関する情報は持っていたのですが、どうしたことでしょう。なぜか、私だけでなく、身近な方が5人も熱中症になっていました。年代は様々です。

共通している点は、「そんなに暑くないので、エアコンをつけなかった」「だるくて、海に行った後のように身体の芯が熱い感じ」です。



そのうちに、「動きたくなくなる」「頭が痛くなってくる」——この時点で、痛みがひどく気づいた人もいますが、私は風邪かなと薬を服用してしまいました。そして、「食欲がなくなる」なかには「吐き気」を感じ気づく人もいました。

私の場合、気づかないまま体温が38℃になってしまいました。すぐにコロナを疑いました。濃厚接触者と思われる方たちに連絡しているうちに、「あれっ？喉が痛くない」と気がつき、ようやく熱中症を疑いました。エアコンをつけ、水分補給用の飲料水を飲み、保冷剤を握って、休息をとりました。しばらくすると回復してきましたが、その後、一週間くらい不調でした。

熱中症は他人事ではないと、肝に銘じた夏でした。

土曜教室 前田 真希

日本語ボランティアこぼれ話

2015年7月、市報をたまたま手に取ったのをきっかけにTIFAに入会しました。授業では、類義語や文法の質問に答えられない事もあり、日本語の難しさを感じ知り、毎回あつという間に1時間半が過ぎます。

発音に関する質問も難しいです。”ん”や”ラ行”の同じ単語を会話で発音を変えて使うのはなぜかと聞かれたことがあります。私は使い分けているつもりなどなく、何を聞かれているのか全く理解できませんでした。受講生に発音の違いを説明してもらい、日本語の発音練習をしたこともあります。

その他、受講生から教わる事は多いです。お勤めのお店や観光スポットの最新情報は、たいてい受講生の方が詳しいですし、台風の時には避難所に避難した事など、私も経験したことのない話を聞き、災害にどう備え、どう行動するかを一緒に考えたりもしました。

実際に日本で生活しているからこそその日常生活に関する質問も多くありました。例えば、手土産選び、日本の家庭料理、交通ルール、病院は何科を受診するか、ビジネス用のメール作成や電話のかけ方、書類の誤字確認、結婚式参列の準備、ふるさと納税などです。

後日、「ありがとう。100%その通りだった。」と結果報告をしてくれた時は、こちらまで嬉しくなりました。

日本語ボランティアを始めて、以前よりも、疑問に思った事は調べる習慣が身につく、外国文化との違いを知る貴重な機会になりました。



受講生 OBOG 30 周年寄稿

本年 6 月 TIFA は創立 30 周年を迎えました。かつて幼児、児童として両親と共に教室で遊び、学んだ方々からメッセージをいただきました。現在の活躍ぶりをご紹介します。(赤嶺)

梁 錦川(りょう きんせん)

皆さまお久しぶりです。まずは 30 周年おめでとうございます！

僕は高校受験まで TIFA の日本語教室でお世話になりました。その中の思い出は数え切れません。小学生の頃に世界ふれあい祭りで売り子をさせて頂いた時の写真は今でも部屋に飾っております。



そんな私は今大学院で経営学を学びながら、舞台を中心に役者活動を続けております。どちらも新しくスタートを切ったばかりで手探りの状態が続いておりますが、機会がありましたら、お世話になった皆さまのお力になればと思っております。

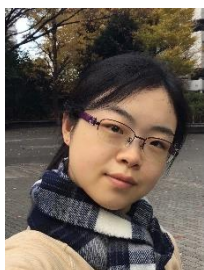
今後も TIFA の益々のご発展と先生方のご健闘、ご活躍を心よりお祈りいたします。

梁 美茜(りょう みせん)

大学に入学してから 4 年半が経ちます。数多くの授業を受けてきましたが一番成長したと感じた授業は「リーダーシップ開発：理論とスキル」になります。

リーダーシップといえば能力のある人がみんなを引っ張っていくというイメージの方が強いかもしれませんが、「権限によらない全員発揮のリーダーシップ」をこの授業では取り扱っており、学生全員が実践的な課題の中でそれを身につけていきます。

課題は毎回大変ですが、真剣に向き合えば向き合うほど自身の成長を見つめることができます。



梁 美如(りょう みじょ)

幼稚園の頃から日本語教室の先生たちにお世話になっています。あれからもう十年も経ちました。今年、私は高校を卒業して、ベルギーの大学に進学することになりました。

ベルギー留学はアメリカやイギリスなどの主流ではないかもしれませんが、進学する大学は学費も安く、世界のトップ大学の一つでもあり、そこでたくさん成長できると思います。



「新しい国へ旅立つのは不安と楽しみが飛び交いますが、私は一人で旅立ちできる喜びのほうが大きいです」とみんなに言っていますが、それはただの見栄えで、実は新しい生活に不安と恐怖が絶えません。(笑)

TIFA で日本語を勉強していた時に、周りで一生懸命日本の生活に慣れようと日本語を勉強していた人たちを今も思い出します。私も彼らみたいに、新しい所への恐怖を乗り越えて、新生活を楽しみたいです。

新しく日本へ来たみなさんも私と一緒に新しい環境で頑張っていきましょう。

土曜教室 ボランティア研修会

6 月 25 日(土) 柴崎学習館第一教室において、土曜教室研修会が開催されました。

梅雨明けの蒸し暑い真夏日にも拘わらず 16 名のボランティアが出席し、授業体験などを基に、現場に密着した内容の講義が行われました。時折笑いも交えての楽しくかつ有意義な研修会となりました。

なお、最後に 3~4 人のグループ別に座談会の時間も設けられ、交流が行われました。(広報部)

テーマ① Dictation を基にした授業の展開

講師：奥田正博さん

英語の Dictation の手法を展開し、日本語指導における留意点や進め方の手順を学びました。

Dictation の後の Shadowing や Discussion についても活用の例が紹介されました。また、参考文献として、「日本という国・・・朝日新聞出版」が紹介されました。

テーマ② 習うより慣れよ、多く聴く、多く喋る

講師：杉本茂さん

*いろいろな場面で使われる言葉とニュアンス

「ごめんなさい、済みません、よろしく」など

*専門分野の用語 建設現場の単語、介護現場の単語

*指導のマンネリ化の防止

スーパーや不動産広告のチラシの活用

カッターチーズ、マヨネーズの作り方など

*会話中心の授業

困ったときのオノマトペ マジックの活用など



七夕まつり

土曜教室

7月2日(土)夜、柴崎学習館第一教室と作業室に於いて七夕祭りが開催されました。30分の学習のあと7時半から約1時間、短冊やお飾り作りに取り組み、各自作品を笹に吊るして、簡単なスピーチを行いました。「ウクライナ戦争を早く終わらせて下さい」「おじいちゃん200歳までずっと元気でいてね」「N2N3合格」など、みんなの思いを伝える短冊が笹の葉とともに揺れていました。



With コロナ、しかも記録的な8日間連続の猛暑日という環境の中でしたが、ボランティアと受講生の総勢35名が参加し日本の伝統行事を楽しみました。



木曜教室

7月7日(木)と14日(木)の2日間にわたり、柴崎学習館3階作業室にて、恒例の七夕まつりを行いました。

7日は、教室に大きな笹が飾られ、A班のボランティアと受講生の総勢28名が、それぞれに願い事を書いた短冊をかけました。

14日はB班の総勢27名が参加しました。この日は、ホワイトボードに短冊や折り紙を飾りましたが、笹の飾りとは一味違う情緒が感じられて良かったです。

日本の行事に触れる機会がなく、七夕について知らない受講生に説明をすると、とても興味深そうに頷きながら、短冊に願い事を書いていました。みんな笑顔で、楽しい七夕のお祭りでした。(広報部)



2022年度 TIFA 総会

5月28日(土)午後2時から柴崎会館1階多目的室に於いて、TIFA 定期総会が開催されました。コロナ感染症の流行が小康状態を保つ中、昨年に続きリアル総会での開催が可能となりました。会員総数は58名、うち出席者25名、委任状22名の合計47名をもって過半数の参加が確認され、総会は成立しました。

木曜教室の富田康予さんが議長に選出され、定期総会資料に従い議事が進められ、提出された議案は全て承認されました。6月の30周年記念日を前に、未来を創るスタート台となる意義深い総会となりました。

新役員(任期2年)

会長 木下究(土)
 副会長 赤嶺令子(木) 小林保(土)
 会計監査 山下良子(木) 波多野進(土)
 教室部長 柏田泰利(木) 佐藤民江(土)
 岡田良雄(西砂)
 企画渉外部長 葛敦(土) 広報部長 的場正道(土)
 会計部長 森和子(土) 事務局長 富田康予(木)



News 立川市外国人住民の人口

2022年1月1日現在 国籍別 単位：人

中国	1,964	台湾	117
韓国	726	朝鮮	94
ベトナム	462	インドネシア	78
フィリピン	379	ブラジル	71
ネパール	223	その他	465
米国	144	総数	4,723

立川市総人口：185,124人 外国人比率：2.55%

参考 2012年の外国人数：3,504人

ホームページ QRコード

立川国際友好協会

西砂教室

